

## 理事長ご挨拶

理事長・学長  
郡 健二郎

開学70周年を記念して、教職員や同窓生の方々の積年の思いであった「大学史資料館」が開館されました。貴重な資料をご提供いただいた方々ならびに開館に向けてご尽力いただいた関係者に深く感謝申し上げます。

本学(名市大)の源流は約140年前に創設された薬学部に遡ります。その後、7学部・7研究科・3附属病院を有する大学に発展を遂げてきました。この間、名市大の輝かしい伝統と歴史を築かれた先達や名市大を温かく支えていただいた名古屋市や地域の方々に改めて深く感謝申し上げます。

名市大が歩んだ足跡が凝縮された「大学史資料館」にお越しいただき、同窓生の方々には学生時代に想いを馳せ、在校生には名市大の明るい未来に夢を膨らませ、地域や海外からの訪問者には本学が掲げるビジョン「名古屋市と共に発展する名市大」「世界に発信する名市大」を実感していただけるものと存じます。

愛され親しまれる「大学史資料館」となり、名市大への愛校心がさらに醸成される起点となることを心より願っております。

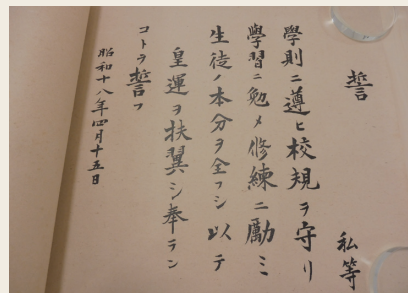
## 展示品の紹介

## 名古屋市立女子高等医学専門学校入学生『誓』

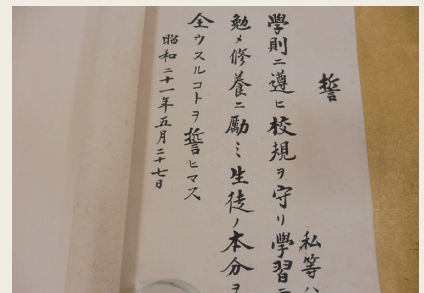
名古屋市立大学医学部の前身である、名古屋市立女子高等医学専門学校は、戦時中の医師不足に対応するため、女性医師の養成を目的に昭和18(1943)年に5年制課程の女子高等医学専門学校として開校しました。

右の資料は、名古屋市立女子高等医学専門学校の入学生たちが入学にあたり、学則・校規に従って学習に努めることを誓い、順次氏名を自署した『誓』という卷子です。巻頭の宣誓文は、戦前の昭和18(1943)年の卷子と戦後の昭和21(1946)年の卷子では異なっており、戦前は「私等學則ニ遵ヒ校規ヲ守リ學習ニ勉メ修練ニ勵ミ生徒ノ本分ヲ全フシ以テ皇運ヲ扶翼シ奉ラン」という教育勅語に基づいた宣誓でしたが、戦後には「私等ハ學則ニ遵ヒ校規ヲ守リ學習ニ勉メ修養ニ勵ミ生徒ノ本分ヲ全ウスルコトヲ誓ヒマス」という宣誓へと変化しており、戦前・戦後における教育の転換を感じ取ることができます。

「私等ハ學則ニ遵ヒ校規ヲ守リ學習ニ勉メ修養ニ勵ミ生徒ノ本分ヲ全ウスルコトヲ誓ヒマス」という宣誓へと変化しており、戦前・戦後における教育の転換を感じ取ることができます。



戦前(昭和18年)の『誓』



戦後(昭和21年)の『誓』

## 大学史資料館館長ご挨拶



大学史資料館館長  
人間文化研究科 教授  
阪井 芳貴

2021年4月より、吉田一彦初代館長から館長を引き継ぎました人間文化研究科の阪井芳貴です。2020年10月末に湊子キャンパスの学生会館2階を改装し大学史資料館が開設され、早くも1年半が経ちました。名市大開学70周年記念事業のひとつとして、短期間のうちに膨大な資料を検証・整理され、資料館を設立された吉田氏のご功績は大なるものがあります。本資料館が開設されたことにより、これまで大学本部をはじめ、各学部・研究科で保管されてきた資料を集約し、今後は名市大全学の財産として、本学の歴史を語り、現在の立ち位置を確認し、さらに将来の発展に資するうえで、この資料館の存在意義はとて大きなものとなるはずですが、この資料館の存在意義はとて大きなものとなるはずですが、コロナ禍のために、開設のお披露目は規模を縮小したものとなり、まだまだ学内外での認知度は期待値を下回っておりますが、今後は名市大の歴史と魅力を発信する拠点として資料館を大いに盛りたてたいと考えております。どうぞよろしくお願いたします。

### 広報誌「NCU Histreet (NCUヒストリート)」の命名について

名市大大学史資料館の活動を発信するツールとして広報誌を発行することになり、その名前(タイトル)を考えることになりました。ありきたりのタイトルではなく印象に残るタイトルをと考えを巡らす中でひらめいたのが、歴史＝ヒストリーと気軽に立ち寄れる通りおよび名市大の将来につながる道＝ストリートを掛け合わせた造語「ヒストリート」です。耳慣れないと思いますが、この先長く親しんでくださればと思います。

大学史資料館館長 阪井芳貴

## 大学史資料館の開館



大学史資料館初代館長  
人間文化研究科 特任教授  
吉田 一彦

2020年10月、名古屋市立大学大学史資料館が開館した。本館が、名古屋市立大学の歴史とアイデンティティを伝える場となり、卒業生、在学生、教職員、関係者が集い、愛着を醸成する拠点として機能することを祈念したい。今後、多くの方々に本館の展示を御覧いただくとともに、種々の物品を収集、保管、調査し、特集展示などでその成果を発信していきたい。本館では、関係の品々の寄贈、貸与を引き続き求めているので、この機会に積極的な御検討をお願いしたい。また、来るべき山の畑キャンパスの整備にあたっては、皆様方のお力添えにより、さらなる充実、整備に向けて前進していけたらありがたいと考える。本館が開学70周年記念事業の一つとして誕生したことはまことに喜ばしく、記念事業に御寄附をいただいた多くの方々に心より感謝申し上げる次第である。

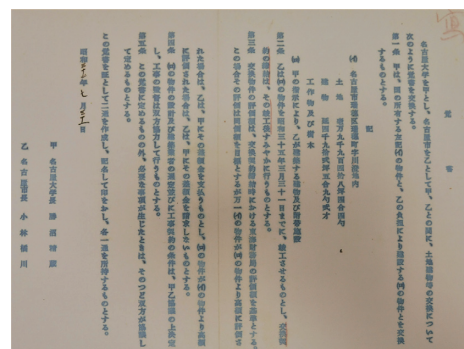
## 名古屋市立大学の沿革 ～名古屋市立大学の成立から医学部の川澄キャンパス移転まで～

名古屋市立大学は、昭和24(1949)年10月の名古屋市議会における議決に基づき、昭和25(1950)年4月に発足しました。戦災により焦土と化した名古屋市域を復興し、経済を再生させ、教育・文化を再興・発展させるという市政の課題を解決するため、名古屋女子医科大学と名古屋薬科大学を合併統合し、医学部(旧制)と薬学部(新制)の2学部、および一般教育を担う教養科によって構成されました。当初、医学部のうち基礎医学部門は名古屋市瑞穂区田辺通に、臨床医学部門および附属病院は名古屋市瑞穂区瑞穂通に置かれ、薬学部は名古屋市外の鳴海町黒石に置かれていました。

誕生したころの名古屋市立大学は、終戦後という時代の制約もあって、必ずしも十分な敷地、建物に恵まれたわけではなく、薬学部は当初から校地を移動したいとの強い希望を持っていました。そこで、昭和26(1951)年2月に田辺通キャンパスの山崎川を挟んで西側にあたる瑞穂区萩山町の土地を買収して名古屋市立大学の校地とし、昭和28(1953)年6月に3階建ての薬学部新校舎を建築し移転しました。こうして、薬学部の悲願であった名古屋市内への移転が達成され、名古屋市立大学としては、山崎川の東側の地に医学部(田辺通三丁目)、西側の地に薬学部(萩山町一丁目)が並ぶこととなりました。しかし、当時の薬学部の校地は敷地約3,000坪(9,900㎡)で、建物は研究室、実習室、図書館、講堂、講義室などはありませんでしたが、全体とし

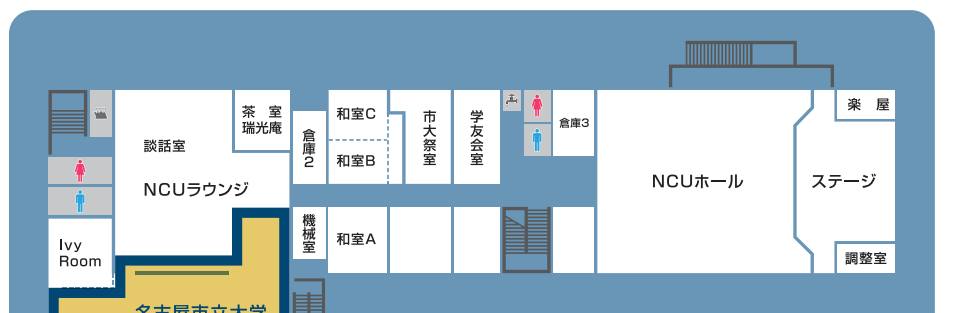
て当初の計画の半分にも達せず、大学の設置基準に及ばないものでした。名古屋市立大学は開学以来、校地・建物問題をかかえていました。

この問題を解決するため、昭和32(1957)年7月、名古屋市は名古屋大学と土地・建物の「交換」を行うことにします。上の資料がその「覚書」(写)です。



この交換の内容は、「覚書」(写)によると、名古屋大学経済学部の土地(名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄)約19,944坪と附属の建物等を名古屋市が譲り受ける代わりに、名古屋市が名古屋大学キャンパス内(名古屋市千種区不老町)に名古屋大学の経済学部と法学部の校舎、学生の寄宿舎、学生会館の一部を建設するというものでした。この交換を経て、昭和33(1958)年より名古屋市立大学医学部は現在の川澄キャンパスへと移転し、今日に至ります。

# 名古屋市立大学大学史資料館展示のご案内



**国際交流**  
International Engagement

**特集展示**  
Special Exhibition

**初代学長  
一戸谷銀三郎—**  
Ginzaburō Totani  
(First president of NCU)

**名古屋  
市立大学の  
沿革**  
Institutional  
History

**八高古墳**  
The Hachikō kofun  
Tumulus

**学生生活の歩み**  
Campus Life : Then and Now

## 名古屋市立大学の沿革

名古屋市立大学の前身校から今日に至る歴史について、新たに発見された公文書、キャンパス図面など大学のあゆみを語る資料を展示しています。



名古屋市立女子高等医学専門学校入学生『誓』

## 初代学長 一戸谷銀三郎—

名古屋市立大学の初代学長である戸谷銀三郎氏の功績を回顧し、関係資料および直筆の草稿や書を展示しています。



初代学長 戸谷銀三郎先生

## 八高古墳

滝子キャンパス内にある4世紀後期の前方後円墳である八高古墳(墳丘長約70m・後円部直径45m)について、発掘調査で検出された出土品やその歴史的意義を紹介しています。



八高古墳出土埴輪片

## 学生生活のあゆみ

大学に所蔵される学生生活に関する資料を展示するとともに、卒業生の皆様から寄贈された思い出の品々を展示しています。



薬学部前身校時代から使用された天秤

## 国際交流

名古屋市立大学の国際交流のあゆみについて、協定締結校との交流の諸相や贈呈された記念品などを紹介しています。



## 特集展示

大学史資料館では、常設展示と特集展示の二つから構成される展示を御覧いただけます。特集展示では、名古屋市立大学の歴史や魅力をより深く知ることができる企画展を行います。



## 開学70周年記念事業

### 「名古屋市立大学大学史資料館開館記念シンポジウム」を開催しました

2022年2月20日(日)に、新型コロナウイルス感染症の影響を受け開催を見合わせておりました、大学史資料館の開館記念シンポジウムをオンラインにて開催しました。

はじめに、吉田一彦大学史資料館初代館長・人間文化研究科特任教授が「名古屋市立大学大学史資料館の展示と特色」と題し、大学史資料館設立の経緯や本学の沿革、貴重な展示資料の紹介等について写真を交え講演を行いました。

続いて、吉田一彦初代館長がコーディネーターとなり、浅井清文保健医療福祉連携理事・医学研究科教授、角哲芸術工学研究科准教授、阪井芳貴大学史資料館館長・人間文化研究科教授がパネリストを務め、「名古屋市立大学70年の歴史と大学史資料館」と題したパネルディスカッションを行いました。パネルディスカッションでは、卒業生視点での在学当時の大学の様子や大学キャンパス整備の変遷、大学史資料館の今後の展望などテーマに沿って様々な角度から意見交換を行いました。また、他大学史資料館の方からもご関心をお寄せいただき、積極的にご質問をいただくなど、非常に活発なシンポジウムとなりました。

当日は本学の在学生・卒業生・教職員をはじめ、他大学や一般の参加者を含む58名が参加し、盛況のうちに幕を閉じました。

本シンポジウムの動画は<https://www.nagoya-cu.ac.jp/archives/>にて公開しておりますので、ぜひご覧ください。



#### 利用のご案内

##### ■開館時間/Opening hours

平日 9:00~17:00 / Weekdays 9:00-17:00

##### ■滝子キャンパスまでのアクセス図 / Direction to Takiko Campus



#### ■名古屋市立大学 大学史資料館への行き方 / Campus Map



〒467-8501 名古屋市瑞穂区瑞穂町字山の畑1 名古屋市立大学 滝子キャンパス学生会館2階  
1, Yamanohata, Mizuho-cho, Mizuho-ku, Nagoya-city, 467-8501  
Nagoya City University Takiko Campus

#### ACCESS

##### ■地下鉄 / Subway

- ・桜通線「桜山」駅下車5番出口より徒歩12分  
12 min on foot from Exit 5 of "Sakurayama," Sakura-dori Line

##### ■市バス / City Bus

- ・金山駅 金山7番のりばより  
金山11・12・16「滝子」下車  
Take "Kanayama Route 11, 12 or 16" bus at Kanayama Depot 7, and get off at "Takiko."
- ・金山駅 金山8番のりばより  
金山14(桜山経由)「滝子」下車  
Take "Kanayama Route 14 (via Sakurayama)" bus at Kanayama Depot 8, and get off at "Takiko."



## 名古屋市立大学 70周年史特設サイト

NAGOYA CITY UNIVERSITY 70th ANNIVERSARY  
HISTORY SPECIAL SITE

令和2年の開学70周年にあたり、これまでの名古屋市立大学の歩みを回顧し、大学の将来を見据える礎として、『名古屋市立大学70周年史』特設サイトを公開中です。



URL:<https://www.nagoya-cu.ac.jp/70years/>